

## ニュースなどで目にされた方も多いのでは



毎年この時期に東京都の浅草寺で行われる羽子板市。12月17日から19日までの3日間行われます。その年の世相を反映した変わり羽子板がテレビなどでも取り上げられることもあり、全国的にもすっかりお馴染みになりました。

ここで売られているのは羽根突きなどに用いられるものとは異なり、押絵羽子板と呼ばれるものです。羽子板自体は室町時代からあったとされていますが、江戸時代に歌舞伎が流行するにつれ、歌舞伎役者や演目をかたどったものがあふれ、人気のある羽子板はその年の役者や舞台のバロメーターになったのです。

## なぜ浅草でだけ羽子板市が・・・？

浅草寺の羽子板市は、かつて歳の市として正月用品などを売るための市として年末に開かれていました。その当時の羽子板は羽つきの遊び道具としての用途だけでしたが次第にこんな理由で縁起物としてもてはやされるようになりました。

- ・羽子板でつく追い羽(ムクロジの実に飾り羽をつけたもの)が害虫を食べるトンボに似ているので、悪い虫が付かない。
- ・ムクロジの部分が「豆」に似ているので、魔除けになる、マメに暮らせる

また、悪い虫が付かないということが悪い男に捕まらないと解釈され、江戸時代末期からは、女の子が生まれた家に羽子板を贈る習慣が生まれたとされています。

こうしたことから羽子板は縁起物として歳の市で売られるようになり、現在でも羽子板市が浅草寺で開かれているのです。

## 買い方にはちょっとコツがあります

並んでいる羽子板は、お店の中でも、手前から店の奥へとだんだん値段が高くなっていきます。まずは手前側の比較的小さめのもの(千円～五千円程度)のものを買うのがおススメ。

また、買い方にもこんなコツ(ルール?)があります。

- ① お店の人に値段を聞きます
- ② 「もうちょっと安くなりませんか～？」と値切り交渉をします。
- ③ 傾合いをみて支払い
- ④ **ただし、支払うのははじめに聞いた値段(重要です!!)**
- ⑤ 差額分は、ご祝儀としてお店に渡します。

お店にもよりますがおよそ一万円以上のものを購入すると手締めをしてくれますよ！

